

「東京都保健医療計画」進捗状況評価における御質問・御意見等について

1 御質問及び対応状況等

(1) 精神疾患

御質問	対応状況及び回答
<ul style="list-style-type: none"> 32地区医師会で実施予定の研修が26地区での実施となった理由（6地区で実施できなかった理由）を示してほしい（松下委員） 	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度の後半に、新型コロナウイルス感染症の感染防止のための研修を中止した地区もあったこと等の理由によります。 今後は、オンラインや書面等による実施や複数地区での合同実施などを検討していきます。
<ul style="list-style-type: none"> グループホーム活用型ショートステイ事業の利用者数が相当減っているため、原因・理由を示してほしい（吉澤委員） 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者数は、利用申込の状況により年度ごとの変動はありますが、お申し込んだ方に対しては、医療機関等と連携し、適切にご利用いただいております。 引き続き、関係機関へ本事業に関する周知等を行いながら、取組みを進めていきます。

(2) 認知症

御質問	対応状況及び回答
<ul style="list-style-type: none"> 認知症疾患医療センターの指定数について、53か所予定のところ、昨年と同じ52か所に終わっており、残りの1か所の予定が駄目になった理由を示してほしい（松下委員） 	<ul style="list-style-type: none"> 医療専門職等の人員体制上、認知症疾患医療センターを整備し運営を行うことが困難な状況にあるため

2 御意見の概要

(1) 精神疾患

事項	御意見
全般	<ul style="list-style-type: none">幅広い課題を取り扱っているが、今日的な課題（ゲーム障害、ひきこもり等）についても精神医療の側面から検討がなされることを期待（水野委員）各事業実績の進捗の中で、取組4-6（災害時こころのケア等）の進捗が評価できる（新井委員）コロナ発生について松沢病院だけでは量的に不十分なため体制整備が必要（平川淳一委員）
都民への普及啓発の充実	<ul style="list-style-type: none">都民全員が確実に精神疾患について正しく理解するためには、学校教育の中で実施していくことが一番（2022年度から使用する高校の学習指導要領の保健体育に「精神疾患の予防と回復」の項目ができた）（眞壁委員）
精神身体合併症救急医療体制の整備	<ul style="list-style-type: none">身体合併症事業のIV型についてはIII型と統合すべき（平川淳一委員）
小児精神科医療の提供・地域における連携体制の整備等の推進	<ul style="list-style-type: none">メンタルケア協議会は精神科救急医療情報センターを運営しているが、最近、小児の救急事例、特に15才以下の事例が増えてきている小児の救急事例は、暴力、興奮、こだわりがとても強い、病態が大人と違う例が少なくない等の特徴があることから、夜間の小児精神科救急医療の充実や精神科救急医療情報センターと小児総合医療センターとの連携を密にすることが必要（羽藤委員）

(2) 認知症

事項	御意見
全般	<ul style="list-style-type: none">認知症アウトリーチチームの地域拠点型認知症疾患医療センターへの配置については、令和元年度訪問支援延べ件数が前年度から減少しているが、取組の達成状況は妥当な評価であるため総合評価Aは妥当と考える（新井委員）この新型コロナウイルス禍の中、家の中に閉じこもりがちとなる高齢者の認知症が進行してしまうことが懸念されるため、ウイズコロナでの、認知症予防やケアをどう進めるのか新しい取り組みが必要と考える（眞壁委員）
専門医療の提供体制の確保と地域連携の推進	<ul style="list-style-type: none">かかりつけ医認知症研修受講者数、看護師認知症対応力向上研修については、かなり増加しており、とても良い（松下委員）認知症疾患医療センターは拠点型と連携型の区別について整理が必要（平川淳一委員）
認知症の人と家族を支える地域づくりの推進	<ul style="list-style-type: none">認知症カフェは高齢者が集まる場を設ける良い取組みであるが、現状の新型コロナウイルス禍の下、利用者が新型コロナウイルス感染症の予防策を徹底することが難しいこと、また高齢者は感染した際のリスクが高いことも踏まえると、感染拡大の状況を見極めながら、その都度対応の工夫をしていくことが必要（つじの委員）長寿・研究部門は見直しが必要（平川淳一委員）

(3) その他

事項	御意見
全般	<ul style="list-style-type: none">より実態に即した評価を行うため、評価の細分化（Aプラス、Aマイナス等）の検討が必要（つじの委員）